

伊豆の国市立長岡南小学校 学校だより



あやめだより

令和7年7月号

「PTA 活動は、何のために必要でしょうか」

校 長 牧野 宏之

6／15（日）に、田方地区PTA指導者研修会が行われ、PTA本部役員や校長・教頭が参加しました。この研修会は、毎年6月に田方地区内の各学校のPTAから代表者が集まり、情報交換やより良いPTA活動について話し合う場です。

今年のテーマは、

- ①「会員減少に伴う組織・活動内容について」
- ②「役員選出の工夫や課題について」でした。

①については、多くの学校が会員の減少に伴い、従来のような組織・活動内容を実施していくことが困難になり改善が検討されています。

組織や活動内容の改善については、ここ最近の話ではなく、昔から継続的に行われてきました。例えば、PTA新聞（広報誌）の発行、PTA懇親会、PTA研修旅行（貸切バスでの施設見学）、講師を招いての講演会、物作りを体験したりするカルチャースクール的なイベント……等々廃止されてきました。廃止継続については、様々な意見がありますが、時代の変化、生活様式の変化に合わせて見直されています。

今回の研修会でも、多く出た意見は「活動内容のスリム化」でした。負担感が小さく、参加しやすいPTA活動を目指していくことは必須です。しかし、廃止継続の議論については、「負担の大きさ」だけでなく、「その活動が必要で意味があるのか」の視点が大切です。

他校の例ですが、PTA奉仕作業で、従来行っていたプール掃除や実施できなかった草刈り・樹木の剪定を外部業者に依頼した話があります。詳細は不明ですが、「PTAの負担が減って良かった」という意見がある一方、「学校が綺麗になれば良いのか？PTA活動の目的は達成されたのか？」という疑問も感じます。

私は、奉仕作業を通して保護者同士や職員との繋がりが深まることが、PTA活動の目的の1つであり、最終的には子供のためになると思います。「休みの日に、家の人に来て学校の環境を整えてくれたんだよ」「奉仕作業では〇〇さんのお父さんと草取りをしながらいろんな話をしたんだよ」といった話が、子供たちにとって大事なことだと考えます。

PTA活動のスリム化については、「子供のため」という視点で、意見を出し合って合意形成していくことが大切だと感じます。

